

令和 8(2026)年度 茨城大学 社会人リカレント教育プログラム専門コース 「サステナビリティ学」 科目等履修生募集要項

「社会人リカレント教育プログラム専門コース」は、変化する社会環境に対応し、次世代を担う人材の育成を目指すリカレント教育プログラムです。パッケージ化された本学学士課程の正課授業科目を科目等履修生※として履修し、特定の分野を体系的に学修することができます。

本専門コースは、学校教育法に基づく特別の課程(履修証明プログラム)であり、修了者には同法に基づく履修証明書が交付されます。

社会人の多様な学修ニーズに対応するため、6 単位 1 年以内のベーシックプランと 12 単位 2 年以内のアドバンスプランを設け、働きながら学べる環境を整えています。

本専門コースの学修を通じて受講者のキャリア形成を支援し、地域の持続的発展に貢献する人材育成を目指します。

※科目等履修生

科目等履修生は、本学で開講している授業科目を履修することを志願する者が、本学の授業及び研究に妨げのない限り、選考のうえ、入学を許可するものです。

授業科目を履修し、試験等で一定の成績を修めると単位が与えられます。

この単位は、大学の正規の単位となりますので、受講者が短大又は高等専門学校の卒業者の場合には、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構に学士の学位を申請する際の単位として活かすことができます。また、各種資格の取得要件として活用できる場合もあります。

茨城大学社会連携センター

1. 名称

- (1) 茨城大学社会人リカレント教育プログラム専門コース「サステナビリティ学」(ベーシックプラン)(以下「ベーシックプラン」という。)
- (2) 茨城大学社会人リカレント教育プログラム専門コース「サステナビリティ学」(アドバンスプラン)(以下「アドバンスプラン」という。)

2. 目的

地球社会の持続可能な発展を導くための学問分野である「サステナビリティ学」を学び、気候変動をはじめとする地球環境問題の原因や解決策を探究します。環境・社会・経済が複雑に絡み合う現代において、将来の地球と社会に関わる多面的な課題を、分野横断的な知識を組み合わせることで総合的に理解し、課題解決に取り組む力を養います。

企業や自治体において、組織のサステナビリティ戦略の立案や環境経営の推進に科学的根拠をもって貢献し、持続可能な社会の実現に向けてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指します。

3. 総授業時間数

- (1) ベーシックプラン 68 時間 15 分以上(6 単位以上)
- (2) アドバンスプラン 136 時間 30 分以上(12 単位以上)

4. 入学資格

高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められる者

5. 入学時期

令和 8(2026)年 9 月 21 日

6. 募集定員

- (1) ベーシックプラン 2 名
- (2) アドバンスプラン 2 名

7. 在学期間

- (1) ベーシックプラン 1 年以内
- (2) アドバンスプラン 2 年以内

8. 授業科目

別添の授業科目一覧をご参照ください。

授業科目の詳細は、Web シラバスでご確認ください。

https://syllabus.ibaraki.ac.jp/syllabus_ref/

9.修了要件

- (1) ベーシックプラン 別添の授業科目のうちから、必修科目を含め、6単位以上を修得すること。
- (2) アドバンスプラン 別添の授業科目のうちから、必修科目を含め、12 単位以上を修得すること。

10.履修証明書

修了要件を満たした者に対しては、学校教育法 105 条に基づく履修証明書を交付します。

11.出願期間

令和 8(2026)年 7 月 21 日(火)から 7 月 30 日(木)まで(土、日及び祝日を除く。)

※定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

12.出願手続

- (1) 検定料 9,800 円

出願にあたっては、検定料の納入が必要となります。

検定料の納入に必要な「検定料振込依頼書」について、あらかじめ受付窓口にご連絡・お取り寄せの上、納入ください。

- (2) 出願書類

入学志願者は、次の書類を添えて、受付窓口へ郵送又は持参にてご提出ください。

ア 申込書(所定の様式)

イ 科目等履修生入学願書(所定の様式)

ウ 履歴書(所定の様式)

エ 最終出身学校の卒業証明書又は卒業見込証明書

オ 勤務している者は勤務先所属長の承諾書(所定の様式)

カ 検定料の振替払込受付証明書

※ 出願書類の受付は期間内必着とします。

※ 出願書類に不備がある場合は受理できません。

13.選考方法

入学志願者から提出された出願書類に基づき、審査を行い、可否を決定します。

14.選考結果通知

可否の結果は、令和 8(2026)年 9 月 10 日(木)までに通知します。

15.入学手続

- (1) 入学料 28,200 円

合格通知を受けた者は、同封の「入学料振込依頼書」により、令和 8(2026)年 9 月

15 日(火)までに入学料を納入ください。

期限までに入学料が納入されなかった場合には、入学は認められません。

(2) 入学料の振替払込受付証明書の提出

「入学料の振替払込受付証明書」を受付窓口に郵送又は持参にてご提出ください。

(3) 入学許可

「振替払込受付証明書」を受領後、入学許可を通知します。

16. 授業料

(1) 授業料の総額

ア ベーシックプラン 88,800 円(6 単位)～(選択する授業科目数により変動します)

イ アドバンスプラン 177,600 円(12 単位)～(選択する授業科目数により変動します)

※ 授業料 1 単位につき 14,800 円

(2) 授業料の請求

授業料は、履修する授業科目が属する学期ごとに請求します。「授業料振込依頼書」により、所定の期日までに納入ください。

(例) 後学期に 3 単位分の科目を、次年度前学期に 3 単位分の科目を履修する場合

・後学期に納入する授業料:44,400 円

・次年度前学期に納入する授業料:44,400 円

17. 保険の加入

授業中をはじめとする学生生活の中で起きた事故等に対応するため、保険(学生教育研究災害傷害保険及び学生付帯賠償責任保険)への加入を義務づけています。

選考結果通知に同封の「払込取扱票」により納入ください。

(1) ベーシックプラン 1,340 円(学生教育研究災害傷害保険:1,000 円+学生付帯賠償責任保険:340 円)

(2) アドバンスプラン 2,430 円(学生教育研究災害傷害保険:1,750 円+学生付帯賠償責任保険:680 円)

18. 入学後の科目申請

入学後、次学期以降に履修する授業科目については、次の期間(休日等を除く。)に申請いただきます。詳細は次学期授業科目案内時に履修者にお知らせします。

(1) 前学期に履修する授業科目 3 月 1 日から 3 月 10 日まで

(2) 後学期に履修する授業科目 7 月 21 日から 7 月 30 日まで

19. 個人情報の取扱い

ご提出いただいた個人情報は、個人情報の保護に関する法律、関連法令及び国立大学

法人茨城大学個人情報保護及び管理規程に基づき適正に管理し、以下の目的の範囲内で利用します。取得した個人情報は、法令に基づく場合を除き、第三者に提供することはありません。

- (1) 入学選考・入学手続
- (2) 履修者への連絡
- (3) 学籍管理
- (4) 授業の履修に必要なオンラインツール等、本学が提供する情報サービスへの登録
- (5) 本学が主催・共催する講演会等の案内
- (6) 本学の教育改善や広報活動を目的とした、個人が特定できない形での集計・分析

20. その他留意事項

- (1) 既納の検定料、入学料、授業料及び提出書類は返還できません。
- (2) 履修が許可された科目以外を履修することはできません。
- (3) 別添の授業科目については、変更される場合があります。

21. 受付・問合せ窓口

茨城大学研究・社会連携部社会連携課社会教育グループ

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

電話：029-228-8438

E-mail: adm-shakaikyoku.sbx@vc.ibaraki.ac.jp

窓口時間：平日 9:00～17:00(12:00～13:00 除く。)

【別添】授業科目一覧（サステイナビリティ学）

開講部局	時間割コード	科目名	開講区分	開講曜日・時限	単位	授業概要	受講条件等	開講形態
SSC	KB9660	◎環境と人間／サステイナビリティ学入門	前期集中※	集中	2	サステイナビリティ学は、地球規模の環境問題や社会的課題に応え、持続可能な発展を志向するための新たな学際的学問領域である。本講義では、茨城大学がこれまで取り組んできた、気候変動をはじめとする地球環境問題の解明、環境保全と経済成長の相互関係、災害への社会的安全対策、地域文化の価値再評価など、将来の社会構築に資する多様なテーマを取り扱う。講義は多様な専門を持つ教員陣がリレー形式で進行し、パネル討論やグループワークを含む対話的な形式で実施される。学生はサステイナビリティ学の基本を学び、地球規模で発生する複雑な問題に対する多面的な理解を深めると共に、具体的な問題解決に必要な分析力と批判的思考力を養うことが期待される。この科目は、サステイナビリティ学に關心を持つ全ての学生に開かれている。	環境問題、持続可能性について関心を持っていること。	対面授業（水戸キャンパス）
SSC	KB9419	★技術と社会／微生物と人間社会	1Q※	金2	1	微生物は、古くから酒や醤油などの発酵食品づくり、最近では化石燃料の代替物として、バイオエタノールや水素などのエネルギー生産にも利用されている。これら我々の生活に直接的に關係するものだけでなく、自然環境の成り立ちをひも解く鍵や持続可能な共生社会を考える場面でも微生物を無視することはできない。本講義では、微生物と我々人間社会・生活の関わりについて講義する。	—	オンライン授業（リアルタイム配信型）
SSC	KB9431	★環境と人間／地球環境と人間活動	1Q※	金2	1	地球温暖化、エネルギー問題、異常気象など人間活動に起因する環境問題について解説する。特に、その基礎となる放射平衡や温室効果などの原理の理解を目的とし、将来の地球環境を考えるために必要な素材を提供する。また、地球温暖化の緩和に有効である再生可能エネルギーの現状や動向についても解説を行う。★本授業の計画等について、ガイダンス動画として公開している。履修者は4月8日までに所定のサイトにて必ず視聴すること。	—	オンライン授業（リアルタイム配信型）
SSC	KB9441	★環境と人間／エネルギーと材料	2Q※	金2	1	社会インフラを支える金属材料の製造法、利用を解説する。それらの製造、利用において生じる社会問題についても概説する。また、エネルギーの基礎を見直し、地球環境を学ぶとともに、化石エネルギー、自然エネルギー、核エネルギー、さらにはエネルギーの有効利用、エネルギーの未来展望について考える。●本授業の計画等について、ガイダンス動画として公開している。履修者は所定のサイトにて必ず視聴すること。（下記「履修上の注意」も確認すること）	高校で学ぶ物理、化学の基礎学力を有すること。	オンライン授業（リアルタイム配信型）
SSC	KB9532	★公共社会／アグロエコロジー	4Q	金2	1	食料生産の持続可能なシステムへの変換を考えるうえで基本となる概念「アグロエコロジー」。その実践的理論の確立と普及に、地域住民がアイディアを出し、住民が参加して社会環境問題を解決する動きが芽生え始めています。さまざまな事例を通してそのような動きを知ること、アグロエコロジーに根ざした「自然共生」や「地産づくり」について考えます。	—	オンライン授業（オンデマンド型）
SSC	KB9538	★グローバル・スタディーズ／環境と経済のサステイナビリティ：気候変動編	3Q	金2	1	気候変動問題をはじめとするサステイナビリティの課題には、複雑な相互作用や様々な相互作用が存在する。本講義では環境経済学、サステイナビリティ学の基礎的な考え方、具体例を紹介し、サステイナビリティの課題に対する各自の意見やバランス感覚を養うことを目指す。●本授業の計画等について、ガイダンス動画として公開している。履修者は10月3日までに所定のサイトにて必ず視聴すること（下記「履修上の注意」も確認すること）●本講義のTeamsコードは、kakldcdである。k	気候変動問題に関心があること	オンライン授業（リアルタイム配信型）
SSC	KB9541	★グローバル・スタディーズ／環境と経済のサステイナビリティ：エネルギー編	4Q	金2	1	気候変動問題をはじめとするサステイナビリティの課題には、複雑な相互作用や様々な相互作用が存在する。本講義では環境経済学、サステイナビリティ学の基礎的な考え方、具体例を紹介し、サステイナビリティの課題に対する各自の意見やバランス感覚を養うことを目指す。*本授業の計画等について、ガイダンス動画として公開している。履修者は11月28日までに所定のサイトにて必ず視聴すること（下記「履修上の注意」も確認すること）*Teamsコードは6g6kquadである	エネルギーとその持続可能性について関心を持っていること	オンライン授業（リアルタイム配信型）
人文社会科学部	LB1013	国際協力論	前期※	火3	2	国際社会全体が取り組む国際開発政策である国連SDGs（持続可能な開発目標）は目標年である2030年にむけた後半の取り組みにはいつている。国際協力はグローバル化が進展する中でSDGsの達成に向けたパートナーシップの手段として不可欠である。世界の多くを占める開発途上国の平和と発展は国際社会全体の安定と繁栄に欠かせない。途上国の課題は我々の地域社会と密接に結びついており、「他人事」ではない「我が事」である。途上国の中で目覚ましい成長を遂げる国がある一方で、極度の貧困に苦しむ国々は依然多く、貧困に伴う社会不安や途上国/国内の格差問題も顕在化している。また、経済・社会の開発問題のみならず、紛争とこれに伴う難民・避難民・国内避難民等の人道問題や、専制国家・破綻国家による法の支配やガバナンスの問題、気候変動・環境問題や災害等も深刻化している。本講義では我々が直面する地球規模課題の解決とSDGsの推進にむけた、国際協力の政策や実践についてThink globally, act locallyの観点から検討する。	・当科目は本学部2年生担当の専門科目であり、シラバスの内容等、よくご理解いただいたうえで、受講いただきたい。・アクティブ・ラーニングにかかり、グループ討論等インターアクティブな授業展開を行う場合、本学学生と協働しての主体的な参加が必須である点、ご了承いただきたい。・当科目の目的・内容等にかんがみ、必要に応じて社会人としての経験・知見を本学学生に共有いただけることが望ましい。	対面授業（水戸キャンパス）
人文社会科学部	LB1030	社会行動論Ⅰ【国際・地域共創メジャー】	後期	月1	2	社会心理学における質的研究（とくにインタビューと観察）について、データを収集・分析・検討する方法を学びます。その際、複数の映画の内容なども議論の俎上に載せ、理解を深める手がかりとします。各受講生が自ら収集した質的データ（インタビューと観察から得られたもの）からどんな考察が可能になるのかについて、実践を通して考えます。	とくになし	オンライン授業（リアルタイム配信型）
人文社会科学部	LB1032	環境社会学	後期	水1	2	環境問題は複雑で厄介な問題です。「環境問題」と言われるものに対する人々の思いは多様です。地域社会の中の様々な問題がもつれ合って生じています。また、問題が解決したと思ったら別の問題が生じることがあります。そもそも何をもちて解決したといえるのか明確ではありません。本授業では環境問題をどのように理解すればよいのか、どのように解決していけばよいのかなどを考えます。	—	対面授業（水戸キャンパス）
人文社会科学部	LB1051	社会行動論Ⅱ	前期※	火2	2	「社会心理学の立場から異文化を識る」ことをテーマとし、具体的には「ベトナム文化」を取り上げます。ベトナムは、国際社会や国際関係で注目されている国のひとつです。ベトナムの戦争を含む近代史のなかでベトナムの人々がどのように生きてきたのかに触れ、ベトナム社会を深く多角的に捉えることを通して、社会心理学の立場から「ベトナム文化」という異文化を識るを試みします。映像資料等を多数活用します。オンラインでベトナムに詳しいゲストを招くこともあります。	とくにありません。	対面授業（水戸キャンパス）
人文社会科学部	LB1054	環境政策論	前期※	水1	2	環境政策の歴史と到達点を理解するとともに、現代の環境政策をめぐる生じている問題について「持続可能性」の概念の理解に基づいて、具体的な事例について説明することができると目指します。また、環境政策の内容や、政策の立案・決定・実施過程の考察をとおして、環境問題の現代的な課題や将来的な争点について理解を深めます。	—	対面授業（水戸キャンパス）
教育学部	P0407A0	英語文学概論B	後期	火3	2	文学作品が創作された時代背景を検証しながら、代表的な作品の一部を読み、英国の各時代の作品の特質を明らかにする。理解を深めるために参考となる映像作品、写真・図版なども見てもらう。なお学生はシェイクスピアや19世紀小説を読み、それを紹介する発表をする。	特になし。	対面授業（水戸キャンパス）
教育学部	P0408A0	英語文学特講Ⅰ	前期※	木2	2	英国18世紀末から19世紀中期にかけての社会・時代背景をふまえてワーズワスやテニスン等の文学史上重要な詩人の作品を鑑賞する。基礎的な作品の理解と分析そして批評方法を学ぶとともに、詩人が活躍した社会と時代の諸相が、作品を通してどのように見えてくるのかを検証する。また英語運用の基本である発音・イントネーション等の矯正を、名詩を利用して行う。	特になし。	対面授業（水戸キャンパス）
教育学部	P0607A0	化学概論	前期※	月4	2	小学校から高等学校までの化学分野の学習内容の背景となる、一般的な化学の基礎知識を包括的に学ぶ。高校化学のエッセンスを簡潔に振り返るとともに、大学レベルの化学への橋渡しを行う。高校化学では暗記せざるを得なかった概念に対してより深い視点から説明できるよう、演習を通して学ぶ。	—	対面授業（水戸キャンパス）
教育学部	P7001A0	衛生学	前期※	金4	2	本講義では、健康生活の条件となる生活上および環境上の諸条件について広く理解し、人間生活と環境の望ましい相互関係について知り、その維持のしかたを考え、実際の環境管理のための方法的原則を学ぶ。特に、人間の生活圏である気圏、水圏、土壌、光線、温暖条件、音と振動、電離放射線などの影響の程度を知るとともに、これらを入為的に調節する方法を学習する。	特に条件はない。	対面授業（水戸キャンパス）
理学部	S1304	生物学通論Ⅱ	後期	火2	2	生物は、自律的な自己複製システムであり、共通した自己増殖の仕組みや体の構造を持つ。一方で、生物は共通祖先から様々な系統に分かれ、非常に多様な形態や生活様式、他種や環境との関係を進化させていることが大きな特徴である。生物の多様性とそれを生み出した進化の過程や、生物どうしあるいは生物と環境の相互作用などを理解するために必要な、基礎的な概念を具体例をあげながら概説する。	—	対面授業（水戸キャンパス）
理学部	S3306	生態学Ⅱ	後期	月2	2	自然界において、生物は同種の他の個体、他の種の個体、周囲の無機環境と複雑な網の目つなぎあわされている。生態学は、この網の目（web of life）の構造と機能を明らかにする学問である。本授業では、生物個体、個体群、生物群集、生態系の各レベルにおける生態学的事象と法則性について生態学の基礎を広く学ぶ。また、人間の生活が生態系から得られる様々な恵み（食料、住環境など）に大きく依存していることから、自然を理解し管理するための基礎科学として、生態学への期待が高まっている。授業の後半では、近年の地球環境変化が生態系に及ぼす影響について概説する。	「生態学Ⅱ」履修済みであること。	対面授業（水戸キャンパス）

【別添】授業科目一覧（サステイナビリティ学）

開講部局	時間割コード	科目名	開講区分	開講曜日・時限	単位	授業概要	受講条件等	開講形態
理学部	S1424	古海洋学	前期※	火2	2	古海洋学は、過去の海洋で何が起こってきたかを調べることで、長期的な海洋および気候の変動メカニズムの解明を目指している新しい学問分野である。本講義では現在の海洋の様子と、それらがどのように堆積物の中に記録されるかを学び、そこから復元される過去の海洋の様子を最新の成果を交えながら解説する。	—	オンライン授業（リアルタイム配信型）
工学部	T6048	地球環境工学【都市システム】	後期	火1	2	環境分野の基礎となる環境科学（環境化学、環境微生物学）について講義したうえで、公害や環境問題の歴史を踏まえて、水質汚濁、大気汚染、廃棄物問題、温暖化などの地球環境問題の原因、メカニズム、対策などを示します。また、環境保全のための制度と対策について解説します。関連科目：水環境学、上下水道工学、河川・水循環工学、海岸工学など。また、水、地盤、計画などほとんどの専門科目に関係します。	—	対面授業（日立キャンパス）
工学部	T6009	都市・地域計画【都市システム】	後期	月2	2	まず都市計画とは何かを具体的に理解するために、現行の都市計画法制度と計画技術の基礎を学びます（専門分野の学力）。次にどのような都市を創っていけばよいのかを考える能力を身につけるために、都市及び都市計画思想の歴史を学び、都市の概念と本質を理解します。（専門分野の学力）。最後に喫緊の課題である地球環境問題や人口減少・少子高齢化、防災・国土強靱化、感染症パンデミックを解決し、持続可能な脱炭素社会を実現するための都市づくりについて考えます（地域活性化志向）。【関連科目】土木計画学Ⅰ・Ⅱ、交通システム、景観工学、建築計画学	本授業を受けるにあたり、障害に起因した合理的配慮が必要な場合は、所属学部	対面授業（日立キャンパス）
工学部	T6050	上下水道工学	前期※	月1	2	人工的な水循環系を構成する上下水道は、重要な社会インフラのひとつです。本講義では、上下水道の歴史、役割、施設の構成と機能、基本計画と施設設計、水処理技術について解説します。そして、持続的な都市を形成・維持するための上下水道の役割を考えます。関連科目：地球環境工学、水環境学、河川・水文学、水理学	—	対面授業（日立キャンパス）
工学部	T6094	河川・水文学【都市システム】（月2）	3Q	月2	1	川と社会の関わりについて、自然と人間の両面から理解を深めます。地形・生物・水循環といった川の自然の特徴やふるまいを知り、その解析方法を学びます。そして人間がその川をどのように制御し、社会活動の基盤となしているかを、計画論と構造物の両面から解説します。関連科目：水理学Ⅰ、水理学Ⅱ、上下水道工学、水環境学	—	対面授業（日立キャンパス）
工学部	T6051	水環境学	後期	月1	2	都市が持続的に発展するためには、健全な水環境と水循環システムが必要となります。本講義では、水利用を切り口として都市と水環境の関係を学びます。次に生態学の観点から水環境を俯瞰したうえで、水環境ごとにその特性、汚濁の原因・機構、水質管理・対策について説明します。最後に総合的な水環境管理、気候変動との関係、環境アセスメントについて解説します。関連科目：上下水道工学、地球環境工学、河川・水文学、海岸工学、水理学。	—	対面授業（日立キャンパス）
工学部	T1007	機械材料工学Ⅰ【機械システム】	後期	水5	2	機械設計・加工には材料の知識が不可欠である。この授業では、鉄鋼材料・非鉄金属材料・セラミックス材料・高分子材料の各種機械材料の化学結合や組織と材料特性の関係の概略を理解するとともに、力学特性の定義と評価方法、材料強化と関連する現象について、体系的な基礎知識として習得を図る。関連科目：化学概論、機械材料工学Ⅱ、機械設計工学、生産加工学※※本科目はプラスⅠプログラムの「サステイナビリティ学教育プログラム」関連の専門科目です	ノートパソコンなどの情報端末とネットワーク環境が必要である	対面授業（日立キャンパス）
工学部	T6006	都市システム工学序論【都市システム】	前期※	木1	1	この授業では、都市システム工学科とは何か？従来の土木工学や建築学との違いは何か？どのような技術者になるのか？そのために何を身につけるのか？といったことを明確にする。また個別分野の技術の歴史、課題、方法論などを紹介し各分野の学習及び進路のガイダンスとする。【関連科目】すべての科目と関連する導入・基礎科目である	特になし。都市システム工学に関する調査・設計・施工・維持管理などの経験を有する方が望ましい。	対面授業（水戸キャンパス）
工学部	T6031	社会基盤工学概論【都市システム】	後期	火4	1	土木工学は、自然に対する畏敬の念を持ち、美しく豊かな国土と持続可能な社会づくりに貢献する学問である。土木工学が対象とする施設は、国土や都市の活動を支えるあらゆる「社会基盤（インフラストラクチャー）」であり、たとえば生活・交通・防災・産業・エネルギー・通信の各施設から緑地公園・公共建築物まで幅広い。本講義では、土木工学の学問分野を中心に、国土と都市における「社会基盤」の計画、設計、施工、運用、管理等の総合的な技術を「社会基盤工学」と称し、構造・材料、地盤、水理、計画、情報、環境の各専門分野の視点から社会基盤のデザインの技術について、本学科における各分野科目の授業体系と内容を概説するとともに、専門分野間・建築学分野等との関係性を紹介する。また技術者倫理についても学ぶ。	—	ハイフレックス型授業（水戸キャンパス）
工学部	T6078	景観工学【都市システム】（木2）	4Q	木2	1	日本の風土や地形、国土・都市の中に土木構造物と建築構造物を美しくおさめるためのデザイン理論と技術を学びます。はじめに景観的に優れた構造物や風景とはどのようなものかを感得してもらいます。次に景観的に優れた構造物や風景を創るための基礎理論とデザイン技術を学び、最後にそのための計画制度と思想を学びます。【関連科目】土木計画学Ⅰ・Ⅱ、都市・地域計画、建築環境工学、建築設備、造形演習、測量学、空間情報工学、社会基盤プロジェクト演習A、建築設計製図	—	対面授業（日立キャンパス）
工学部	T6054	振動及び耐震工学【都市システム】	前期※	木2	2	土木・建築構造物の耐震設計を理解する上で、振動現象は基本的かつ重要な、必須の専門分野の学力である。弾性応答を基本に1自由度系の固有周期、減衰の有無、自由振動、強制振動を学び、2自由度系ではモード解析を学ぶ、さらに時刻歴応答解析、応答スペクトル法を学び耐震設計への適用を学習する。関連科目：微分積分Ⅰ、線形代数Ⅰ、力と運動、構造力学Ⅰ、常微分方程式	—	対面授業（日立キャンパス）
工学部	T6057	地盤工学【都市システム】	前期※	木4	2	社会基盤設備等を支える基礎地盤設計および基礎形式の選定・設計ができるよう、必要な基礎知識や設計法について教授します。基礎設計に必要な地盤・基礎の支持力機構、地盤改良技術を教授します。教育の成果は、試験で確認します。関連科目：地盤力学Ⅰ、地盤力学Ⅱ、社会基盤プロジェクト演習B	特になし。地盤に関する調査・設計等の業務を行った経験がある方が望ましい。	対面授業（日立キャンパス）
農学部	AN2278	農作業学（2,3,4年）	後期	水1	2	農作業システムに求められる課題は、将来にわたって農業生産性、競争力、収益性等の点で優れているとともに、天然資源を保全し、環境の保護に役立ち、健康や食物等の安全性をも増進するような農業の実現に寄与することである。本授業では、今までの農業機械化体系技術を越えて、資源・環境の保全と健康・安全食物の生産・供給の両立という要請に応えた農作業システムのあり方について理解を深める。また、データサイエンス学修要素を取り入れ、農作業と農業環境理解を深める。	—	対面授業（阿見キャンパス）
農学部	AN3108	地圏生態化学	前期※	水3	2	地球環境中の地圏や土壌圏は、生命活動・機能を維持するために必須な物質を生産・分解する場所である。地質学および化学的变化と微生物の働きとの相互作用が地圏や土壌圏の化学的性質に大きな役割を果たしている。「土-微生物-根圏」生態系の相互作用について化学的に理解する。また、微生物の活性が地圏・生物圏の化学環境に及ぼす影響について理解する。	土壌と微生物、植物栄養や気候変動に興味のある方。	対面授業（阿見キャンパス）
地域未来共創学環	R4208	環境経済評価法	前期※	金5	2	環境問題には、複雑な相互作用や様々なトレードオフ関係が存在する。環境問題を理解するためには、いわゆる学際的な知識が必要とされる。そこで、本講義では気候変動やエネルギーなどの具体例を挙げながら環境経済学の基礎的な考え方を紹介する。こうして、環境、経済、社会のサステイナビリティの諸課題に対する知識と議論する能力を身につけることを目指す。	—	対面授業（水戸キャンパス）

- ◎…必修科目です。
★…ベーシックプランでの履修を推奨する科目です。
※…令和9年度前期開講予定の科目です。変更又は開講されない可能性があります。

【開講形態】

- (1) 対面：キャンパス内の同一教室等において対面で実施する授業
(2) オンライン(リアルタイム)：オンラインツールを利用して授業をリアルタイム配信する同時双方向型オンライン授業
(3) オンライン(オンデマンド)：オンラインツールにアップされた教材や指示書を各自受講後、速やかに質問等を受け付けるオンデマンド型オンライン授業
(4) ハイフレックス：対面授業を実施しながら、オンラインツールを利用して当該対面授業をリアルタイム配信し、対面で受講する学生、オンラインで受講する学生をあらかじめ指定して実施する

授業回により対面とオンラインが混在する授業もございますので、あらかじめ授業科目の詳細をWebシラバスでご確認ください。
https://syllabus.ibaraki.ac.jp/syllabus_ref